

4. 多様体上の微分形式 (2)

① ベクトル空間上の交代形式

しばらく線型代数の一般論を展開

ある。あとで $V = T_p M$ とする。

定義 ベクトル空間 V に対し

$$\otimes^k V^* := \{ V \text{ 上の } k \text{ 重線型形式} \}$$

$$= \left\{ \mu: \overbrace{V \times \cdots \times V}^{k \text{ 個}} \rightarrow \mathbb{R} \mid \mu \text{ は各変数について線型} \right\}$$

定義 $\mu \in \otimes^k V^*$ に対し

$$\mu \text{ は 対称形式} \stackrel{\text{def}}{\iff} \mu(v_{\sigma(1)}, \dots, v_{\sigma(k)}) = \mu(v_1, \dots, v_k)$$

$$\mu \text{ は 交代形式} \stackrel{\text{def}}{\iff}$$

$$\mu(v_{\sigma(1)}, \dots, v_{\sigma(k)}) = (\text{sgn } \sigma) \mu(v_1, \dots, v_k)$$

$\Gamma := \{ v_1, \dots, v_k \in V, \sigma \in S_k \text{ (対称群)} \}$.

$$S^k V^* := \{ \mu \in \otimes^k V^* \mid \mu \text{ は対称形式} \}$$

$$\wedge^k V^* := \{ \mu \in \otimes^k V^* \mid \mu \text{ は交代形式} \}$$

これらは $\otimes^k V^*$ の部分ベクトル空間。

注 $k=1$ のときは $\otimes^1 V^* = S^1 V^* = \wedge^1 V^* = V^*$.

$k=0$ のときは $\otimes^0 V^* = S^0 V^* = \wedge^0 V^* = \mathbb{R}$ と定める。

定義 $\alpha^1, \dots, \alpha^k \in V^*$ に対し $k \times k$ 行列

$$\alpha^1 \wedge \cdots \wedge \alpha^k \in \wedge^k V^* \text{ を次で定義する:}$$

$$(\alpha^1 \wedge \cdots \wedge \alpha^k)(v_1, \dots, v_k) = \det(\alpha^i(v_j)).$$

順着の入れかえについて次の成立する: $\sigma \in S_k$ に対し

$$\alpha^{\sigma(1)} \wedge \cdots \wedge \alpha^{\sigma(k)} = (\text{sgn } \sigma) \alpha^1 \wedge \cdots \wedge \alpha^k.$$

とくに $\alpha^1, \dots, \alpha^k$ のうちに同じものがあると $\alpha^1 \wedge \cdots \wedge \alpha^k = 0$.

命題 4.1 $\dim V = n (= \dim V^*)$ で

$\alpha^1, \dots, \alpha^n$ が V^* の基底であるとき

$$\alpha^{i_1} \wedge \cdots \wedge \alpha^{i_k} \quad (i_1 < \cdots < i_k)$$

の形の元全体が $\wedge^k V^*$ の基底をなす。

(証明は略.)

注 $k \geq n+1$ のときは $\wedge^k V^* = 0$ である。

② 外積 (ウェッジ積)

定義 $\mu \in \wedge^k V^*, \mu' \in \wedge^l V^*$ に対し

$\mu \wedge \mu' \in \wedge^{k+l} V^*$ を次で定義する:

$$(\mu \wedge \mu')(v_1, \dots, v_{k+l})$$

$$:= \frac{1}{k! l!} \sum_{\sigma \in S_{k+l}} (\text{sgn } \sigma) \mu(v_{\sigma(1)}, \dots, v_{\sigma(k)}) \times \mu'(v_{\sigma(k+1)}, \dots, v_{\sigma(k+l)}).$$

命題 4.2 \wedge は結合法則を満たす。

さらに, $\mu \in \wedge^k V^*, \mu' \in \wedge^l V^*, \mu'' \in \wedge^m V^*$ に対し

$\mu \wedge \mu' \wedge \mu''$ は次で与えられる:

$$(\mu \wedge \mu' \wedge \mu'')(v_1, \dots, v_{k+l+m})$$

$$= \frac{1}{k! l! m!} \sum_{\sigma \in S_{k+l+m}} (\text{sgn } \sigma) \mu(v_{\sigma(1)}, \dots, v_{\sigma(k)}) \times \mu'(v_{\sigma(k+1)}, \dots, v_{\sigma(k+l)}) \mu''(v_{\sigma(k+l+1)}, \dots, v_{\sigma(k+l+m)}).$$

注 $\alpha^1, \dots, \alpha^k \in V^*$ に対し前にも定義した

$\alpha^1 \wedge \cdots \wedge \alpha^k$ は, いま定義した外積の

特別な場合である。

⑧ 多様体上の微分 k 形式

定義 M 上の 微分 k 形式 とは

$\omega = \{\omega_p\}_{p \in M}$, $\omega_p \in \wedge^k T_p^* M$ という族のこと。

$$\omega: M \rightarrow \wedge^k T^* M \left(:= \bigsqcup_{p \in M} \wedge^k T_p^* M \right)$$

$$p \mapsto \omega_p$$

という写像とみれば可とも多い。

定義 M のチャート $(U; x^1, \dots, x^n)$ において

$$dx^{i_1} \wedge \dots \wedge dx^{i_k} = \{(dx^{i_1})_p \wedge \dots \wedge (dx^{i_k})_p\}_{p \in M}.$$

すると任意の微分 k 形式 ω は U 上で

$$\omega|_U = \sum_{i_1 < \dots < i_k} f_{i_1 \dots i_k} dx^{i_1} \wedge \dots \wedge dx^{i_k}$$

と表される (ω の 局所座標表示)。

定義 ω が C^∞ 級 \iff 任意のチャートに関する局所座標表示で各 $f_{i_1 \dots i_k}$ が C^∞ 級。

$$\Omega^k(M) := \{ M \text{ 上の } C^\infty \text{ 級微分 } k \text{ 形式} \}.$$

注 これはさらに「 M のある部分アトラス \mathcal{A}' に属する各チャートに関する局所座標表示で各 $f_{i_1 \dots i_k}$ が C^∞ 級」とも同値。

これは次の変換則による。

命題 4.3 微分 k 形式 ω を 2 つのチャート $(U; x^1, \dots, x^n), (\tilde{U}; \tilde{x}^1, \dots, \tilde{x}^n)$ において

局所座標表示したとき, $U \cap \tilde{U}$ において

$$\tilde{f}_{i_1 \dots i_k} = \sum_{j_1 < \dots < j_k} \left[\frac{\partial(x^{j_1}, \dots, x^{j_k})}{\partial(\tilde{x}^{i_1}, \dots, \tilde{x}^{i_k})} \right] f_{j_1 \dots j_k}$$

↑ 座標変換の Jacobi 行列式

例 \mathbb{R}^2 において $\omega = dx \wedge dy$ とおく。

また $\tilde{U} = \mathbb{R}^2 \setminus \{(x, 0) \mid x \leq 0\}$ とおく

$$r = \sqrt{x^2 + y^2}, \quad \theta = \arctan \frac{y}{x} \quad (\in (-\pi, \pi))$$

と定める。 $(\tilde{U}; r, \theta)$ も \mathbb{R}^2 のチャートである。

$$x = r \cos \theta, \quad y = r \sin \theta \quad r \geq 0, \theta \in (-\pi, \pi)$$

$$dx = \cos \theta \cdot dr - r \sin \theta \cdot d\theta,$$

$$dy = \sin \theta \cdot dr + r \cos \theta \cdot d\theta.$$

$$\therefore dx \wedge dy = \cos \theta \cdot r \cos \theta \, dr \wedge d\theta - r \sin \theta \cdot \sin \theta \, d\theta \wedge dr$$

$$= \textcircled{r} \, dr \wedge d\theta.$$

命題 4.3 によるとこれを $\frac{\partial(x, y)}{\partial(r, \theta)}$ を計算することでも導ける。(しかし多くの場合, 命題 4.3 を使うより 上記のように直接計算して

しまう方が実用的だと思う。)

⑨ ベクトル場を代入すること

$\omega \in \Omega^k(M), X_1, \dots, X_k \in \mathfrak{X}(M)$ に対し

$$p \mapsto \omega_p(X_1)_p, \dots, (X_k)_p)$$

で与えられる関数を $\omega(X_1, \dots, X_k)$ と書く。